

第1回「神崎高校生のもっと知りたい」について

ボランティア部

昨年度は、神河町社会福祉協議会を知ってもらうために社会福祉協議会の取り組みを体験し、ビデオ撮影に協力しました。本年度は、神河町唯一の高校である「県立神崎高等学校」と、神河町が相互連携を深めることで、地域に対する関心と誇りを持ってもらうことを目的として企画され、昨年度同様に体験も含めビデオ撮影に協力しています。神河町内の自然や文化、歴史など高校生の目線で探究してもらい、視聴者である町民の皆さんにも、高校生と同じ目線で町内をみることで、普段見慣れていたものや知らなかったものなど知ってもらうきっかけづくりを行う番組です。撮影されたものは、神河町ケーブルテレビネットワークで放映されます。

記

1 第1回目の番組制作の日程等

- (1) 日 時 令和元年5月23日（木）予備日24日（金） 8:00～12:00
- (2) 内 容 本校校門付近での番組全体の趣旨説明と仙霊茶^{せんれいちや}の茶摘み体験、加工工程の紹介など
- (3) 担 当 2年生3名、3年生2名の計5名
- (4) 仙霊茶とかほりの里かんざきの紹介

仙霊茶は、神河町吉富を中心に栽培されています。その歴史は深く、享保元年（1716年）、河の風土に目をつけた栗賀の里（現在の神河町栗賀町）の生蓮寺^{しょうれんじ}の住職が茶作りを奨励したのが始まりです。比較的冷涼で、適度に雨が降り、山々が霧に包まれ、清流に恵まれているのがこの地の特徴で、この神河の自然を茶葉に取り込んだのが仙霊茶です。名前の由来は、享保10年（1725年）に、京都・宝鏡寺の宮様から「仙霊」の名を賜ったと言われています。吉富の茶園は、国道312号線からすぐのところにあります。周囲は山に囲まれ、耕作面積は7haに渡って広がっています。茶園の中に入ると茶工場以外の人工物がほとんど見えません。この茶工場が、かほりの里かんざきです。ここで取られた茶葉の加工が行われて、仙霊茶になります。

(5) PRビデオ撮影や茶摘み体験等の活動写真



写真1 概要説明



写真2 加工場での説明



写真3 仙霊茶の説明



写真4 仙霊茶試飲



写真5 茶摘みの説明



写真6 茶摘み体験①



写真7 茶摘み体験②



写真8 取り立て茶葉